

アイリヤはいつもより早い時間に帰宅した。

決して想いは変わらない。

それを証明するため、今宵もまた彼女は語る。

今日はどんな男と、どのように交わってきたのかを。

「やはり旦那様のお側でくつろげるこの時間はなによりの幸せです」

麻の粗末なシーツの上に腰を降ろすアイリヤ。

あなたの体にツツ、と寄り添い、ほっとため息をつく。

「最近は夜通しでおつとめをすることが増えてしまいました。

ひと月後の収穫祭に向けて、

より多くの子をお国に売らねばと長老も躍起になっているのです。

やはり大きな祭事にはお金がかかりますからね」

そう言う彼女の表情には疲れが見える。

「孕み娘はこの村の財産でもありますし、長老のご意向には従わなければなりません。

そのせいで旦那様にさみしい想いをさせてしまっているのは、

とても苦しく思っているのですが……。

ふふ。でも今日は早い時間に帰ることが出来ましたし、旦那様と一緒にお食事を頂いて、  
こうして共に眠れます。とても幸せなことです」

無理の混じったその笑顔は、あなたが愛する妻の、最も美しい瞬間の一つだ。

そして彼女はこう続ける。

「はあ。毎日が今日のようなのだたらどんなにいいか。

すみません。私としたことが愚痴ばかり……。

しかしやはり旦那様にご心配をかけている今の状況はよくないと思っていますのです」

アイリヤは懷にしまっていた、蒼くきらめく宝石をとりだした。

それはろうそくのか細い明かりしかない家の中でも、ひときわ輝いて見える。

「おつとめのご報告も、記録石のみの日が増えてしまいましたし。ログストーン

本当は口頭でしっかりとお伝えしたいのですが……。

石が見せるものの通り、最近では若い衆の皆様が孕み所に集まるようになってしまつて。収穫の時期でみな懷が潤ってきたからでしょうか。

お酒をもって孕み所にやってきて坏を交わしつつ、

代わる代わる私とまぐわうという過ごし方が流行しているんです」

彼女の言う通り、最近、あなたが記録石で見る光景は酷いものだ。ログストーン

村の若い衆が寄つてたかつて、アイリヤの体をむさぼり、弄んでいる。

夫であるあなたを嘲笑するかのような、粗末な扱い……。

女陰のみならず、口や肛門にも男根を抜き挿しし、無造作に吐精する。

白濁に飲まれたあなたの妻を眺めつつ、嗤いながら酒を飲む……。

「本来孕み所とは神聖な場所。自堕落に過ごす場ではございません。

長老も今の状況は良く思つてはいないはずですが、

やはり子をもっと私に産んで欲しいからなのでしょう。黙認されています」

やはり、と言うしかなかった。

長老の対応は普段の通りだ。

「私の立場としても、

一晩でより多くのお子種を受け入れられる状況を自ら拒絶するわけにもいきません。

ですのでやはり私とおまんこハメハメを望む彼らを拒むことは出来ないのです。

あ。すみません、つい言葉遣いが」

そう言つて顔を赤らめるアイリヤ。

その少女のような表情に、あなたは見惚れてしまう。

「ええと。実は本日早く帰ることが出来たのには理由があるのです。

というのもお察しの通り、孕むことが出来たからではあるのですが」

ああ……。

71 今宵もまた、彼女は他の男の精で孕んでしまった……。  
72 ……なぜだろう？

73 自分と幾度交わろうと種が彼女の肚に届くことはないのに、  
74 思い入れも気持ちもない男の精が受け入れられるのか……。  
75 そんな悔しい想いを抱えていると、アイリヤは唐突にこんなことを言い出した。  
76

77 「村人がやってくる夜ではなく昼に、私がなぜ孕むことができたのか。  
78 疑問に思われますよね？」

79 その答えですが、ふふっ。すみません。思い出し笑いをしてしまいました。  
80 今日はいつもとより楽しいおつとめだったものですから」

81  
82 彼女がおつとめの話をする時、こんな風に無邪気に笑うことがある。  
83 あなたはそれを、いつも複雑な心境で見ている。

84 ああ、こんなにも自分の妻は美しく、可憐で、愛らしいのに、  
85 どうして他の男の話をしているのだ。彼女は自分のものなのに、と……。

86  
87 「旦那様には申し訳がないのですが、そのような感想が漏れてしまうほど、  
88 和気あいあいとした時間でしたので……。  
89 ……それでは、今日のお昼にあったことをお話しますね？」

90  
91 そして、いつものように彼女は語りだした。  
92 今日はどこの誰と、どんな風にまぐわい、そして孕んだのかを。

93  
94 「私は夜明けまでのおつとめを終えて、一旦我が家に帰り仮眠をとったあと、  
95 孕み所に戻りお相手をお待ちしていました。

96 普段お昼にやってくる村人は殆どおりません。

97 皆それぞれのおつとめに励んでいますから。

98 ですが今日は違いました。まだ日の高い時間に訪問者が現れたのです。

99  
100 それは長老と三人の子供でした。  
101

102 旦那様もご存知ではないですか？ 村のわんぱくっ子たちです。

103 先代の孕み娘がお産みになられ、長老のご判断でこの村に残すことを決めた子どもたち。

104 その中でも特にいたずら好きな彼ら。ふふっ、そうですね。

105 この前もお隣のおうちの壁に落書きをして怒られていました。  
106

107 そんな元気な子供たちがなぜだか孕み所にやってきた。

108 子供は孕み娘のいるお社には近づかないようにとよく両親に言い聞かされていたので、  
109 なぜ彼らがここに？ と不思議に思いました。

110 すると私の疑問を察したのか、

111 長老は子どもたちを連れてきたわけを話してくださったのです。

112

113 近頃の若者は目にあまる。

114 今の彼らに何を言っても聞かせても詮無きことだ。

115 子をつくり産ませることの大切さを知らぬまま、

116 ただ己の快楽を食うためだけにお前を抱いているだろう。

117

118 しかし幼い頃から教えを説いておけばああはならんはずだ。

119 頼む。おぬしの手でこの子らに子作りについて詳しく教えてはくれないか、と。  
120 なるほどと私は思いました。

121 確かに私達は子作りについて、

122 幼い頃からこれといった教育を施されたことはありませんでした。

123

124 ですが村の誰よりも人とまぐわい、子を産んでいる孕み娘なら、  
125 まぐわうことについて詳しく子どもたちに教えられる。

126 それによって将来の孕み娘の負担が軽減するのなら……。

127 やる価値はあると私は思いました。

128

129 しかし長老の、今の若者に何を言っても無駄だという言葉は、

130 私に負担を強いている現状への言い訳のように聞こえたのも事実ではあります。

131 提案自体は素晴らしいものでしたし、

132 引つかかることはあったにせよ、私は長老の願いを聞き入れることに致しました。

133

134 それから子どもたちへの子作り講義が始まったのです。

135

136 といってもお社には黒板のような物を書くための道具はなく、  
137 体のしくみについて書かれた本もありません。

138 ですから三人の子供をあの大きな寢床に招き入れ座らせて、  
139 彼らの前に立ち、ただお話をする他に授業する方法はなかったのです。

140

141 お社の中に入ったあの子たちは、物珍しそうにあたりを見回したりと、  
142 どこかそわそわとした様子でした。

それもそうでしょう。やはりはじめての場所というものはわくわくするものです。  
そんな彼らの好奇心は私にも向いていました。きっと孕み着のせいでしょう。  
村の中であまで上等な衣服を身にまとう女性はいません。  
初めてみた美しい衣服に目を奪われていました。

彼らはみな普段よりもおとなしかったので、  
これはお話がしやすいなと早速私は講義を開始したのです。

まずはじめに子どもたちに聞きました。子供が生まれる仕組みを知っていますか？  
三人は首を横に振りました。ああやはり。と私は続けます。

ではあなたたちのお母様、先代の孕み娘様のお腹の中から生まれた、  
ということを知っていますか？

この質問には三人ともうんと頷いたのです。  
なるほどと思い私は三度目の質問をしました。

ではお腹の中ではどうやって、赤ちゃんが作られるかわかりますか？  
三人とも首をかしげます。

これは仕組みからしっかりとお話しねばと、  
私は着床、妊娠までの過程を易しい言葉で説明していったのです。

女性のお腹の中に男性の出した赤ちゃんの種が入ることで妊娠するんですよ。  
とこのように。しかしここで子どもたちの中にも疑問が生まれました。

ではどうすれば赤ちゃんの種は女の腹の中に入っていくのかという問いです。

一人は口の中から？ と私に問いました。  
確かにお子種を口でお受けすることもあります、それをしても妊娠はしません。

もう一人はお尻の穴から？ と私に問いました。  
そういった行為の方法もありますが、これも妊娠には至りません。

最後の一人は鼻の中から！ と勢いよく言いました。  
わたしはたまらず、ふふっ、笑ってしまつて。

179

すると笑われたのが悔しかったのか、

180

一人の子供は口を尖らせてしまいました。

181

私はいけない、これで興味を失われたら困ると思います。こう告げたのです。

182

「ごめんなさいね。では答えを教えてあげましょう、と言って……、

183

私は股を少しだけ開き、衣装をめくっておまんこを見せたのです。

184

あの状況では、教材は私しかありませんでしたしね。

185

ここに赤ちゃんの種が入ることで女は妊娠するんですよ。

186

と言うと、みな目をまんまるにして驚いて。

187

ふふっ、あの表情は、とってもかわいらしかったです。

188

それから、彼らはぐつと近づき、私のおまんこをじっと見て鼻息を荒くしていきました。

189

初めて見る女の性器に、みな興味津々です。矢継ぎ早に質問が飛んできました。

190

どうして穴が開いているの？

191

どうして少し濡れているの？

192

どうしたら、ここに赤ちゃんの種を入れられるの？

193

私は一つ一つ丁寧に答えました。

194

穴が開いているのは男の人の性器、おちんちんを挿れるため。

195

濡れているのは、おちんちんを挿れやすくするため。

196

赤ちゃんの種をおまんこにいれるには、おちんちんから赤ちゃんの種、

197

精子を出すのですよ、と。

198

そんな説明を聞いていくうちに、三人ともお股をむずむずとさせはじめて……。

199

ついには一人が急におまんこに指を挿れてきたのです。

200

私はこら、と叱りましたが子供の勢いというのはすごいもので……。

201

もう二人もおまんこに指をいれようと群がり、私は寢床に押し倒されてしまいました。

202

やはり三人ともわんぱくっ子。

203

私が指を挿れられて声をあげるのが面白かったでしょう。

204

いたずらが始まってしまいました」

205

胸をつついてみたり太ももをさすってみたりして私の体で遊び始めて。ふふっ。

215 それは普段から村の皆様から受ける扱いと比べると可愛らしいもので、  
216 私には余裕がございました。

217  
218  
219  
220  
221 けれど私を弄んでいたはずの子どもたちの表情はだんだんと泣き出しそうな顔へ変わっ  
222 ていったのです。

223 彼らのお股をみれば小さな突起が三つ、ピンと衣服を突き上げていました。  
224 きつともどかしくてもどかしくて、でもどうしたらいいかわからない。  
225 そんな苦しさに苛まれていたのでしょうね。

226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248

ですから私は、ふふつ。ここから先は記録石で確認したほうがいいかもしれませんね」

そう言つて彼女は、記録石をあなたの首にかけた。

最後になったしやりん、という鎖の音とともに、  
あなたは昼間の孕み処、まぐわう寸前のアイリヤを見つめる、  
一人の子供の眼に同調してゆくのだった……。

~~~~~

おとなりに住むおねえちゃんは、ぼくにキラキラのくびかざりをかけてくれた。

「これはお守りのようなものです。これからすることが上手くいくようになりますから、  
つけていてくださいね？」

おまもり……？

ぼくたちはこれから、どんなことをするんだろう。  
ちよつとこわいなあ……。

「皆さん？ お股の所がむずむずして、とつてもつらい気持ちになっているようですね」  
ほんとうだ。おちんちんが、いつもよりなんだか、へんなカンジがする。  
これ、なんなんだろ……？  
せつなくて、このままでののがすごくイヤで、でもどうしていいかわかんない……。

249 「いたずらしてごめんなさいが言えれば、私がなんとかしてあげますよ？」

250

251 っ、ごめんなさい。

252

ごめんなさい。

253

ごめんなさい！

254

こえはバラバラだったけど、キモチはみんないっしょだった。

255

256 「はい、よく出来ました。それでは、まず着ているお服を脱いでしましましょうか」

257

258 みずあびするときじゃないのに？

259

でも、おねえちゃんはそう言ってるし……。

260

うう、みんなにおちんちん、みられたくないなあ……。

261

262 「恥ずかしいのですか？ 大丈夫ですよ。

263

みーんなで裸になれば、恥ずかしいことはありません。大人もみんなしていることです」

264

265 ほんとう？

266

となりのアールくんが言う。

267

こつくり、とおねえちゃんはどうなずいた。

268

269 「それにぬぎぬぎしないと、皆さんのつらい気持ちはいつまでもなくなりませんよ？」

270

271 それはやだ……！

272

はやくこのキモチ、さよならしたいっ！

273

274 ふくをぬいで、ぼくたちははだかんぼになる。

275

みんな、てでおちんちんをかくそうとしたけど、

276

おねえちゃんはおくびをよこにふりふりする。

277

278 あう……。ピンピンになってるところがぜんぶみえちゃった。

279

280 「ふふっ、よく出来ました♪

281

まあ、皆さんのおちんちん、小さくても立派に勃起していますね。

282

こうしておちんちんが硬くなっていることを勃起、というのですよ？

283

私のおまんこにおちんちんを挿れる準備が出来た証です」

284



285 おねえちゃんがまたむずかしいことを言ってる。  
286 おちんちんを、おまんこに……？  
287

288 いれたい！  
289 いきなりエルくんがおおきなこえで、てをあげていった。  
290

291 「ですが、いきなりおちんちんをおまんこに挿れるのはいいい子作りとは言えません。  
292 子作りは子供を作るためにすることですが、  
293 心の交流、人と仲良くするためにすることでもあります」  
294

295 なかよく、ゆっくり。  
296 あたまがぼんやりして、ちゃんとわからなかったけど、  
297 たぶんおねえちゃんをあせらないで、っていつてるんだとおもう。  
298

299 「ですからゆっくり、じっくりおまんことおちんちんの、  
300 そして私と皆さんの距離を縮めていきましようね？」  
301

302 ぼくは、おねえちゃんにおちんちんをちかづけた。  
303

304 「他の二人はしっかり見て、私のマネをしてくださいね？」  
305

306 おねえちゃんのやわらかういてが、ぼくのおちんちんをさわる。  
307 ゆっくりこしこしされて、おしりのおくからじわじわ、  
308 おしっこがもれそうなきみたいになってくる。  
309 でも、おしっこするときより、ぜんぜんすごいっ！  
310

311 となりのふたりも、じぶんでおちんちんをこしこつてしてる。  
312 つらそうなおしてるけど、ほんとうは……。  
313

314 「このようにして勃起したおちんちんをしごく……。  
315 ふふっ、じょうずじょうず。気持ちよくなってきましたよね？  
316 こうしてお手々でおちんちんをしごいてもらうことを手コキ。  
317 自分でするときはオナニーといいます」  
318

319 おなにー。  
320 ぼくだけ、てこきしてもらってるんだ。

321 それって、なんだかすごいこと、だよね？

322  
323 「一人の時はこうしておちんちんを自分で気持ちよくしておけば、  
324 いざおまんこにおちんちんを挿れる時にびっくりしないで済みますからね。  
325 それになにより気持ちいい。そうでしょう？

326 ふふっ、いいんですよ。男の子はみーんなすることですから。  
327 ほら。私の体を見ながらしこしこ、もつとしこしことしてみてください」

328  
329 みんなもっとはやく、てをうごかす。

330 おねえちゃんもぼくのおちんちんを、しゅっしゅっってはやくうごかす。  
331 やわらかくてあったかなでしゅこしゅこされると、すっごくきもちいい……っ！  
332

333 「これから皆さんは、この体の中に赤ちゃんの素、  
334 精子を注ぎ込んで赤ちゃんをつくるのです。  
335 それは今お手々でしこしこするよりも、ずっつと気持ちの良いことなのです」

336  
337 これよりきもちいいの……！？  
338 こづくりって、すごいんだ！  
339

340 「ふふふ。皆さんお目々がとろーんとして来ましたね。可愛らしいです。  
341 それでは、こういうのはどうでしょうか」  
342

343 ひゃうっ！  
344 へんなこえ、でちゃった！  
345 だって、おねえちゃんがきゅうに、ぼくのおみみをぺろって！  
346

347 「ちゅっ♡ ちゅうちゅっ♡ あむれろ♡ ちゅぺろちゅっ♡ ちゅばちゅっ♡  
348 こうして、敏感な部分を舐めることで、より心と心は近づくのです」  
349

350 はうっ、からだ、ぞくぞくするようっ！  
351 おちんちんもきもちよくて、おみもきもちよくて、うううっ！  
352

353 「はむちゅっ♡ れろれろちゅばちゅっ♡ あむじゅるっ♡ ちゅばあ♡  
354 ほら、お二人ももっと私に近づいてください♪ ちゅっ♡ ちゅうちゅむちゅっ♡」  
355

356 アールくんとエルくんのおちんちん、おねえちゃんのおかおにくっつきそう。

357  
358 「私の体におちんちんを向けて。ふふっ、ちゅっ、かわいい。  
359 ちゅうちゅっ、そのまま、しこしこ、しこしこ、ですよ？  
360 ちゅっ♡ ちゅうちゅっ♡ ちゅばちゅっ♡ れろれろあむちゅっ♡  
361 ぺろぺろっ♡ はむちゅっ♡ ちゅうっ♡」

362  
363 アールくんは、きゅうにおねえちゃんのうしろにまわって、こしをぎゅってつかんだ。  
364

365 「んはんっ♡ もう。お尻におちんちん、勝手にすりすりして。

366 でもそのぐらいやさしくしてくれるなら、いいですよ♡

367 あなたもほら。我慢せずにおちんちんを私の体にこすりつけてみてください」  
368

369 うん、っていつて、

370 エルくんもアールくんみたいにおちんちんをおねえちゃんのこしにへこへこつてする。  
371 いいなあ、ぼくもしたい……！  
372

373 「あはっ、うふふふっ。上手上手。

374 この衣装は特別製ですから、多少こすったところで痛みません。  
375 ですから存分におちんちんで私の体を確かめてみてください。  
376 どうです？

377 女の体は男の人とは違ってやわらかくて、

378 春に咲くお花のようないい匂いがするでしょう？」  
379

380 いいにおいはさつきからずっとしてた。

381 だからふたりみたいにしたらもっといいにおいするんだろなあ。  
382

383 「あんっ♡

384 なので乱暴に扱ってはいけません。大人になるまで忘れないでくださいね？

385 れろちゅ♡ あむちゅうちゅっ♡ ちゆるちゅっ♡

386 れろちゅば♡ ちゅむっちゅっちゅっ♡ ふふふっ♡

387 おちんちんの先からとろーっとしたものが出てきましたね？

388 これはそろそろ精子を出したい、という合図のようなものです。

389 ーも。ちゅっ♡ れろちゅっ♡ ちゅばちゅっ♡ ちゅうちゅっ♡ ちゅっ♡

390 もう少し我慢です。そうすれば、きつとーっても気持ちよくなれますから」  
391

392 とろとろ、おちんちんから、ううっ、なんかでそう、なのにでない……っ

393 これ、すっごくくるしいよう！  
394

395 「はむれろっ♡ ちゆれるれろろ♡ あむちゅばっ♡ ちゅっ♡ れろじゅっ♡  
396 ふふふっ♡ おちんちんがんばれ♡ おちんちんがんばれ♡  
397 ちゅっ、れるちゅっ、ちゅばちゅっ。あんっ、ふふふっ、  
398 ちゆれろちゅむっ♡ れろじゆるちゅっ♡ ちゅはむちゅっ♡ ちゅばちゆるるっ♡  
399 ぺろじゆるれろ♡ ちゅっ♡ ちゅむちゅはむっ♡ ちゅぺろれろ♡  
400 あらあら、そんな泣きそうな顔。ちゅっ、ふふふっ、仕方ありませんね」  
401

402 おねえちゃんがやっとぼくのおちんちんからてをはなしてくれた。  
403 よ、よかったあ……。

404 ふたりのまえでおもらしなんて、はずかしくてイヤだったもん。  
405

406 「ではそろそろ本番。いえ、おまんこハメハメをしましょうか♪」  
407

408 おまんこハメハメって、こづくりのことだよね。  
409

410 ほんとうにぼく、これからおねえちゃんとあかちゃんつくるんだ！  
411

412 ぼくはおねえちゃんにそっとおされて、ベッドのうえにねころんだ。  
413

414 アールくんとエルくんが、ぼくをしんばいそうにみている。  
415

416 「見えますか？ おちんちんが私のおまんこに向かってピンと立っていますね？」  
417

418 ぼくにまたがりながら、おねえちゃんはふあんそうなふたりにやさしくいった。  
419

420 「これからおちんちんがおまんこの中につぶつぶつぶ、とゆーっくり入っていきます。  
421

422 みなさんはこれから先程お話した子作りをするのですよ？  
423

424 習うより慣れる。実践することより理解が深まるはずです。  
425

426 これもお勉強ですから、皆さん遠慮なく私のおまんこで、  
427

428 気持ちよくなっていいますからね」

429 そっか。これはおべんきようなんだ。  
430

431 きもちよくて、あったかくて、いいにおい。  
432

433 おねえちゃんとなら、まいにちでもおべんきようしたいなあ。  
434

435 「あははっ、おちんちんびくんびくんって。期待してしまっているんですね？」

429 それでは、はじめましょうね。まずはあなたから……」

430  
431 おねえちゃんのからだは、ゆ〜っくりぼくのからだにおりてくる。  
432 わわっ、おちんちんのさきつばがにゆるにゆるって……。  
433

434 「んふふっ、ほーら、ゆ〜っくり這入っていきますね、ふふっ、ふふふふふっ」

435  
436 はぁぁ……っ！

437 すごい、なんだろうっ、これ……っ！？

438 おねえちゃんのおまんこ、ぬちぬちで、きもちいいっ！  
439

440 「はーい。おちんちん、おまんこでぱっくり啜えこんでしまいました♪  
441 気持ちいいですか？」  
442

443 ぼくはうんうん、ってうなづく。

444 こえもだしたかったけど、ぜんぜんでなかった。

445 だって、こんなきもちいいこと、はじめてなんだもん！  
446

447 「ほら。おまんこハメハメはとーっても気持ちいいことなのです。

448 それに私も、んっ、はぁんっ♡

449 おちんちんで気持ちよくなっています。ふふっ、良いことづくめですね？」  
450

451 そっか、おねえちゃんもきもちいいんだ！

452 うれしい、うれしいなぁっ！  
453

454 「大事なのは、んっ♡

455 二人がお互いを思いやりながら、んっ、はぁっ、ぁんっ、はぁぁんっ♡

456 おちんちんとおまんこでずぼずぼ、ぬちぬちゅとすることは、

457 はうんっ、んっ、ぁんっ♡

458 元気な赤ちゃんを作るために必要なこと、んはぁっ、ですからね。んっ、よく覚えておい  
459 てくださいね♡」  
460

461 おねえちゃんがからだをゆらすと、それだけおちんちんがきゅんきゅんしてくる。  
462 すごいっ、すごいよおっ♡  
463

464 「大人になると、んはぁ、くうんっ、自分のことばかり考えて、

465 はんっ、おちんちんを乱暴に、おまんこに 叩きつける人もいますが♡  
466 あなた達は、んっ、そんな風にはならないでくださいね？ あんっ、ふはあっ♡」

467 そんなふうにおねえちゃんをいじめるひとがいるなんてひどいとおもった。  
468 だってこんなにやさしくしてくれるひとに、いたいこと、こわいことなんてしちやだめだ  
470 もん。

471 「私との約束ですよ。んふっ、はあんっ、あっ、んんっ、はあはあっ♡  
472 お二人も……やっぱり見ているだけでは、おちんちん寂しくなってしまうすよね？  
473 それでは……んっ♡ 腰を突き出して、そうです♪  
474 こうしておちんちんを両手で握って……」

475 おねえちゃんはアールくんのおちんちんと、エルくんのおちんちんを、  
476 さっきぼくにしたみたいにしゅこしゅこしはじめた。

477 「んっしょ、はあっ、しこしこ、しーこしこ」  
478 みーんなで気持ちよくなりましょうね？  
479 おちんちんも、おまんこも仲間外れはなし、ですよ♡  
480 んっ、ああんっ、子供おちんちん、すくつく元気いっぱいですね。  
481 ふふっ、んっ、あっ、んんっ、はあん♡」

482 ああ、ふたりのおちんちんがおねえちゃんにきもちよくされてる……！  
483 さっきまでぼくだけのおねえちゃんだったのに……！

484 「あなた達の初めては、私がとってもいい思い出にしてあげます。  
485 おまんこすることを大切に、そして大好きになってもらいたいです♪」  
486 ふふっ、ではでもーっともっと、気持ちよくなれるように♪」

487 あれ、おくち、おちんちにちかづけて、なにするんだろ？

488 「んじゅっ、ちゅぺろじゅっ、ちゅうちゅっ、ちゅっ、ちゅーっ。お口で気持ちよくしっつ」  
489 わっ、アールくんのおちんちん、おねえちゃんがたべちゃった！

490 「おまんこできゅうきゅう締め付けて、  
491 んちゅっ、じゅるちゅっ、ぺろろれるるっ、ちゅ、ちゅれろちゅっ」

あっ、うっ、ぼくのおちんちんも、おまんこできゅーきゅーにされてっ！  
うう……っ、こんなの、こんなのはじめてだよっ！

「ちゅっ、れろちゅっ、ちゅあむれろれるっ、ぺろちゆるっ、ちゅむちゅぱっ♡  
はむちゅっ、子供おちんちんかわいいです。

はむれろっ、ちゅじゆるちゅっ、ちゆるちゅっ、じゆるるっ♡

ふふっ、こっちのおちんちんも。おまたせしました♡

あむじゅっ、じゆるちゅぱっ、ちゅうっ、ちゅぱちゅっ、れろれろろ♡」

す……っ！

おねえちゃん、おまんこでぼくのおちんちんたべながら、  
おくちでもふたりのおちんちんを、ぺろぺろしてるっ……っ！

「はむちゅ、ぺろちゅじゅっ、ちゅまちゅっ、あむれろれろ♡

ちゅっ、あ、でも駄目ですからね？

私以外の、孕み娘以外の女の人とこんなことをしたら♡

ちゅじゆるちゅっ、私は日々のおつとめで慣れていきますけど♡

普通は、女性一人と男性三人でまぐわいなど、しないのですから♡

あむちゅっ、はむじゆるちゅっ、ぺろじゆるるっ♡

ちゅっ、じゅあむれろれろ、ぶはあっ♡」

ううっ、いいなあ！

ぼくもおねえちゃんにおちんちんぺろぺろしてほしい！

「ぶふっ、あなたも私の唇が欲しいですか？ では」

あれ、おめめとじて、かお、ちかづけて……ひゃあっ！

「ちゅっ、ちゅあむちゅっ、ぺれろちゅっ、ちゅうはむっ、れろちゅっ」

わあっ、おねえちゃんと、おくちとおくち、くっつけちゃってる……っ！

きもちいいようっ！

「ちゅっ、じゅして、キスをしながらまぐわうことを、ちゅっ、キスハメ、というのですよ」





573 おねえちゃんのこしのふりふりが、どんどんはよくなる。  
574 ぼくは、ううっ、うーってこえがでちゃってはずかしかったけど、  
575 ふたりもおなじみたいだった。

576  
577 なんだか、またちよっとこわくなってきちゃった。  
578 このむずむずがなくなったら、ぼくはどうなっちゃうんだろ……？  
579

580 「んっ、はんっ、あっ、あふふふっ、んもう、落ち着いて、大丈夫、大丈夫ですから♡  
581 あなたはこれから、んああっ、孕み娘の腹に、子種を送り込むという、  
582 んんっ、崇高な行いをするのです♡  
583 あはっ、あっ、んんっ、それはとっても気持ちよくて、  
584 ふうっ、名誉なことなのですから♪

585 恐れず、ただ流れにまかせて、体を私に、私のおまんこに預けておけばいいのです♡」  
586

587 そっか、おねえちゃんがそういうなら、そうなんだ！  
588 ぼくはおねえちゃんのはめはめできもちよくなるのは、いいことなんだ！  
589

590 「あなた達も、んはあっ、同じですからね？ お手々おまんこで、いーっぱい気持ちよくな  
591 って、んんっ、くださいね？」  
592 それでは、くうんっ、はあはあっ、みんなで、いっしょにイキましようね？」  
593

594 みんないっしょ。  
595 それならこわくない……っ！  
596

597 「はうっ、んっ、それっ！」  
598

599 あううっ！ あっ、あっ、へんなの、で、出るうっっ！  
600

601 「びゅっっ、びゅびゅびゅっ、びゅっっ、びゅくびゅくびゅくっ、びゅっっ、びゅっっ、び  
602 ゅるるるっ」  
603

604 おねえちゃんのこえといっしょに、おちんちんからすごいきもちいいのがでた！  
605

606 ううっ、すごいこれっ！  
607 おちんちん、いまいちばんきもちいいっ！  
608 おまんこはめはめっ、すごいよお！

「ふふっ、皆さんいーっぱいお子種を吐き出せましたね。偉い偉い」

きづいたら、ぼくも、アールくんもエルくんも、いきをぜえぜえしてた。  
おねえちゃんのきれいなふくには、しろいどろどろがいっぱいついてる……！

「んっ、はあんっ。ほら、ご覧ください」

ぼくのおちんちんから、おねえちゃんのおまんこがいなくなっちゃう……。  
なんだかさみしいけど、でもとってもすっきりして、へんなかんじ……。

あれ？

あの白いどろどろ、ぼくもだしてたんだ！

「私のおまんこから溢れ出る、この白いどろどろした液体。

これが赤ちゃんの素、精子、精液と呼ばれるものです。

この中にとっても小さな種がたくさん泳いでいて、

私のおまんこから子宮、お腹の中にはいっていき、赤ちゃんになるのですよ」

そっか。

ぼく、じょうずにおまんこ、できたんだ！

すごい、ぼくがおねえちゃんとあかちゃん、つくったんだ！

「それにしても、服がドロドロ。」

あ、怒ってなどいけませんよ？　いつものことですから」

ごめんなさいっていうふたりに、おねえちゃんはにこにこしてだいじょぶっていう。  
やっぱりとってもやさしいなあ……。

「それでは孕み着はいったん脱いで」

それからおねえちゃんは、きれいなふくをぬいだ。

ぼくらははだかんぼになったおねえちゃんのからだをみて、

またおちんちんがかたくしちやった。

だって、すっごくおっぱいがおおきくて、やわらかそうだし……。

おはだもすべすべで、きれいだったんだもん……。

「これでみんな本当にはだかんぼ、ですね？」

アールくんは、ぴんぴんのおちんちんをおねえちゃんにむけてつんつんした。

「ああんつ、もう。おちんちんでほっぺにキスするなんて♡

おまんこ、待ちきれないみたいですね？ いいですよ。次はあなたと」

そっかあ、つぎはおねえちゃん、アールくんとおまんこするのなあ……。

ぼく、もういっかいしたいのになあ。

「はじめてのおまんこハメハメは疲れましたよね？　しばしそこで休んでいてください。  
まだまだ時間がありますから、また私とおまんこハメハメ、しましうね♡」

やったあ！

ぼく、またあかちゃんつくれるんだ！

うれしいなあ……！

それから、おねえちゃんはおくちのとなりにごろんっとなごころがった。  
つぎはアールくんがうえになっておまんこするみたい。

「ほら、さっきの私のように、

おちんちん、おまんこにつぶつぶっついていてみてください♡」

アールくんがおねえちゃんのからだにのしかかる。

おねえちゃんのほうがおっきくて、ふわふわで、おふとんよりきもちよさそう……。

ぼくはがまんできなくなって、おねえちゃんのおくちをおちんちんでつんつんした。  
そしたら、ふふっってわらって、ぼくのおちんちんもちゅばちゅばしてくれて……！

このくびわ、なんだかじゃまだなあ。

おむねにこっこつあたって、ちよつといたい。

てにくるぐるにすれば、いいかな？

そうしよっつと。

「どうでしたか？　いつも旦那様にお見せする雑で激しいまぐわいよりもこう、かわいら

681 しいと言いますか、微笑ましい光景でしたでしょう？」

682  
683 ああ……。

684  
685 「あれから三人と数度交わり、しっかりと子作りの心地よさ、そして尊さを学んでもらうこ  
686 とが出来ました」

687  
688 「あの子たちっからはじめての子作りで疲れたのか寝てしまつて」

689  
690 「私もつられてつい、子どもたちと一緒にはだかんぼでお昼寝をしてしまいました」

691  
692 あなただけのものだと思っていたあの柔らかな笑顔は、  
693 年端もいかないうちにも向けられている……。

694  
695 「目を覚ますと、子供たちのうち一人の子種で孕んでいることに気づきました。

696 子どもたちを迎えにきた長老にそれを話すと、

697 今後子どもたちにまぐわいを教えてほしいと頼まれたのです」

698  
699 「私は喜んでとお答えしました。それに昼間に子どもたちとまぐわい孕むことが出来れば、  
700 こうして夜に旦那様との時間を作れますしね」

701  
702 くやしいと思う心さえ、奪われたような心地。

703 子供に対抗心など芽生えさせてはならない、というけなしの矜持が、  
704 あなたを縛り、戒め、苦しめている……。

705  
706 「それにあの感じでしたら、次は子供四人、いえ五人相手でも同時におまんこハメハメ、  
707 失礼しました。子作り講義をすることもできそうです♪」

708  
709 「これからの村をより良いものにするためですものね。がんばりたいと思います」  
710 旦那様も応援してくださいますよね？」

711  
712 あなたは静かに頷いた。そうすることしか出来なかった。

713  
714 「ふふっ、うれしいです。ではそろそろ、ちゅっ」

715  
716 「おやすみなさい。旦那様」